

10月2日午後3時発表の予定につき  
それまで取り扱い注意

## 2018年度デミング賞各賞の受賞者について

2018年10月2日

当連盟内に置かれているデミング賞委員会（委員長 中西 宏明）は10月2日（火）14時から経団連会館（東京・大手町）において委員会を開催し、2018年度デミング賞各賞の受賞者を決定しましたので、ご連絡いたします。

一般財団法人 日本科学技術連盟  
理事長 佐々木 眞一

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

### デミング賞委員会

（一般財団法人 日本科学技術連盟内）

セクレタリー：中島<sup>なかしま</sup> 宣彦

事務局：高取<sup>たかとり</sup> 健，密<sup>みつ</sup> 暁子，原<sup>はら</sup> 奈穂子

〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4階

TEL：03-5990-5852（デミング賞委員会事務局）

携帯：080-8909-2552（10/2、10/3の連絡先）

FAX：03-3344-3022

E-MAIL：demingprize@juse.or.jp（密，原）

URL：<http://www.juse.or.jp/deming/>（日）

[http://www.juse.or.jp/deming\\_en/](http://www.juse.or.jp/deming_en/)（英）

## 2018年度（平成30年度） デミング賞 各賞受賞者

2018年度（平成30年度）のデミング賞各賞の審査は、デミング賞委員会の各委員会において本年5月から9月にかけて行われてまいりましたが、本年10月2日開催のデミング賞委員会において以下のとおり受賞者が決定いたしました。

授賞式は、11月14日（水）17時15分から東京・大手町の経団連会館において行われます。

授賞式に引き続き、18時45分から同会館において受賞記念祝賀会が行われます。

また、受賞者による受賞報告講演会は、授賞式に先立って、11月14日（水）10時00分から同会場で行われます。

### 受賞者

#### 1. デミング賞大賞

株式会社キャタラー

すなかわ ひろあき  
(砂川 博明 氏、代表取締役社長)

#### 2. デミング賞本賞

おおぬま くにひこ

大沼 邦彦 氏 日立オートモティブシステムズ株式会社 取締役会議長

(1946年生、71歳)

#### 3. デミング賞（受賞組織名五十音順）

アイホン株式会社

いちかわ しゅうさく  
(市川 周作 氏、代表取締役社長)

Indus Towers Limited

ビマル ダヤル  
(Mr. Bimal Dayal, Chief Executive Officer)

株式会社オティックス

おだ い ひろしげ  
(小田井 博茂 氏、代表取締役社長)

海洋王照明科技股份有限公司

しゅう めいけつ  
(周 明傑 氏、董事長)

PT Komatsu Indonesia

プラトジョジョ デウオ  
(Mr. Pratjojo Dewo, President Director)

JSW Steel Limited, Vijayanagar Works

ラジャシェカール パタナセティ  
(Mr. Rajashekhar Pattanasetty, President)

Sundram Fasteners Limited

アラチ クリシュナ  
(Ms. Arathi Krishna, Managing Director)

トヨタホーム株式会社

やましな ただし  
(山科 忠 氏、取締役社長)

Rane NSK Steering Systems Private Limited

ガネシュ  
(Mr. L. Ganesh, Chairman)

## 受賞者参考事項

### 1. 2018 年度デミング賞大賞

#### 株式会社キャタラー

代表者名：砂川 博明 氏（代表取締役社長）  
所在地：〒437-1492 静岡県掛川市千浜 7800  
TEL：0537-72-5698  
事業内容：四輪用及び二輪用排出ガス浄化触媒、環境ケミカルの開発・製造・販売  
売上高：1,810 億円(連結)  
従業員数：2,167 名(連結)、937 名(単体)

#### [受賞理由]

同社は 1967 年に設立され、四輪・二輪用排出ガス浄化触媒を中心として開発・製造・販売する企業である。従業員数は 937 名、売上高は約 1,810 億円である。

同社は 2015 年にデミング賞を受賞している。その後、電動化への流れや激化するグローバル競争を見据え、さらに持続的成長をするため、向う 10 年間のグローバルビジョンを策定し、その実現に直結した TQM を展開している。

プラットフォーム触媒の開発に基づく開発期間短縮による受注確率の大幅向上、工場からサプライチェーン全体へ BCM(事業継続マネジメント)を拡大、弱点を顧客価値創造に転換するための新研究開発センターの立ち上げ、さらに日常管理の標準整備による自工程完結の徹底などの卓越した活動が展開されている。加えて IoT 時代の情報基盤整備も目を見張るものがある。

その結果、納入不良ゼロを継続するとともに、2020 年、25 年の収益目標を十分達成しうる組織能力を TQM により培っている。

### 2. 2018 年度デミング賞本賞

おおぬま くにひこ

**大沼 邦彦 氏** 日立オートモティブシステムズ株式会社 取締役会議長

(1946年生、71歳)

#### [受賞理由]

大沼邦彦氏は、(株)日立製作所 水戸工場副工場長、(株)日立ビルシステム 代表取締役社長、(株)日立製作所 代表執行役副社長を経て、日立オートモティブシステムズ(株) 代表執行役社長、代表取締役会長 & CEO、取締役会議長を歴任し、「品質なくして事業なし」という信念で、品質を会社の DNA とすべくグローバルな品質経営を率先推進してきた。新幹線用制御システム、上下水道処理設備等の制御用コンピュータなど、社会的に多大な影響力のある製品の信頼性・品質の向上で、顧客と社会に大きく貢献した。また、日本品質管理学会会長として「社会の繁栄に貢献」に向けて学会の発展に、日本エレベータ協会会長としてエレベータによる人身事故防止のための関係法規の改定に貢献した。世界中の顧客に評価されるモノづくりの実現を支える人財育成・現場組織の活性化のために、グローバル小集団活動の推進に尽力し、品質の確保・向上と品質管理の普及・発展に貢献した。

### 3. 2018 年度デミング賞 (受賞組織名五十音順)

#### アイホン株式会社

代表者名：市川 周作 氏 (代表取締役社長)  
所在地：〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町 1-1  
          明治安田生命名古屋ビル 10 階  
T E L：052-228-8181  
事業内容：インターホン、ナースコール等の機器製造、据付工事、請負、  
          修理・売買および輸出入等  
売上高：451.1 億円  
従業員数：1,946 名

#### [受賞理由]

同社は、1948 年に設立されたインターホンを中心とした電気通信機器を供給するシステムメーカーであり、企画・開発・生産から営業・アフターサービスまで一貫した事業活動を行っている。売上高は 451.1 億円、従業員数は 1,946 名である。

同社は、1976 年に T Q C を導入して品質保証体制を確立させ、1981 年にはデミング賞実施賞中小企業賞を受賞している。その後の環境変化への適応と持続的な人材育成が必要となり、2015 年に T Q M 再活性化宣言を行った。

同社は、顧客指向の徹底と組織力強化を中心におき、競争優位性を生み出す社内基盤の構築を目指した活動を推進している。その実現手段として T Q M を活用し、方針管理の仕組みの再構築、営業ツールの開発、Q C サークル活動の強化、階層別教育による人材育成などが行われている。その結果、売上高、営業利益高は増加しており、2017 年度には過去最高の連結売上高を達成している。

#### Indus Towers Limited

インダスタワーズ株式会社(インド)

代表者名：ビマル ダヤル 氏 (チーフ エグゼクティブ オフィサー)  
Mr. Bimal Dayal (Chief Executive Officer)  
所在地：4th Floor, Tower-A, Building-10, DLF Cyber City, Gurgaon,  
          122002,  
Haryana, INDIA  
T E L：+91-98-1180-5020  
事業内容：受動型電気通信基盤プロバイダ  
従業員数：約 2,500 名

#### [受賞理由]

同社は、インドの通信業界 3 社の出資により、複数の通信キャリアに対して、通信インフラの一部である通信用基地の建設とその維持管理を提供するという新しいビジネスモデルを創造して 2007 年に設立された。現在インド国内第 1 位で世界でも第 3 位の規模の企業である。正社員約 2,500 名に加えて、

多くの非正規社員とパートナー企業から構成されている。

同社は、その革新的なビジネスモデルを実現するために克服しなければならぬ諸課題を構造的に整理して明確化し、それぞれに対応する方針管理、日常管理、新商品開発などの仕組みの整備などTQMの方法論をパートナー企業を巻き込んで導入・推進してきた。さらに、先進的な通信ツールを駆使したIT活用により、現場に対する即応体制も含むプロセスの整備が進んでいることも特筆される。

以上の活動の効果として、同社はその革新的なビジネスモデルを確立し、同社を取り巻く5つのステークホルダーの満足度・影響度を把握しながら、激変し続ける業界においてその事業を盤石なものとしている。

## 株式会社オティックス

代表者名：小田井 博茂 氏（代表取締役社長）

所在地：〒444-0392 愛知県西尾市中畑町浜田下 10

T E L：0563-59-6481

事業内容：自動車部品(エンジン部品、駆動系部品)の製造・販売

売上高：610 億円

従業員数：1,488 名

### [受賞理由]

同社は、1918年に小田井鉄工所として創業し、動弁系・燃料系などのエンジン機能部品を主製品とした各種自動車部品を製造・販売している。従業員数は1,488名、国内売上高は610億円である。

同社は、1970年代にTQCを導入し、2013年まで10年連続してトヨタ品質管理優秀賞を受賞するなど、品質管理活動が企業風土として根づいていた。同社を取り巻く大きな環境変化に対応するために、2014年に「TQM強化宣言書」を発し、2017年には「VISION 120」を策定し、全社展開によるビジョンの明確化、その達成に向けて方針管理と徹底した改善活動を行った。この間、部門横断活動による魅力ある新製品の開発、様々な設備の活用と生産の仕組み構築による高い生産能力の維持向上などの活動に取り組んでいる。

その結果、TQMによる体系的活動が進展し、従業員の問題解決能力が向上することにより、品質、納期などに関する指標が大きく改善している。また、グローバル売上高や利益額の向上、新規受注高増加を実現している。

## 海洋王照明科技股份有限公司 (中国)

Ocean's King Lighting Science & Technology Co., Ltd.

代表者名：周 明傑 氏 (董事長)

Mr. Zhou Mingjie (Board Chairman)

所在地：中国廣東省深圳市光明新区高新路 1601 号

1601, Mansion, Gaoxin Road, Guangming New District,  
Shenzhen, CHINA

T E L : +86-755-2649-2666

事業内容：産業用防爆等特殊性能要求の照明器具製品の開発・製造・販売

売上高：国内約 11.74 億人民元(約 202.98 億円), 海外 766.34 万ドル  
(約 8.58 億円)

従業員数：2,477 名

### [受賞理由]

同社は、特殊な性能要求のある産業用照明器具を開発・製造・販売する企業である。従業員数は 2,477 人、売上高は国内約 11.7 億人民元(約 202.98 億円)、海外約 770 万ドル(約 8.58 億円)である。

同社は、生産過剰に落ちいったことに危機感を持ち、体質を改善して永遠の発展の基礎を築きたいという思いで 2012 年に T Q M を導入した。営業支店・営業所を業界ごとに分ける業界事業部制により顧客との緊密な関係を築くとともに、仕入れ先と一体化した生産体制の構築に取り組むことで強固な信頼関係を構築できている。さらに、方針管理により業界事業部と本社機能部門の連携を強化する一方、各部門が生み出した価値に基づいて経営資源を分配する自主経営により従業員の意識の向上を図っている。

結果として、顧客満足度が向上するとともに、売上高の目標達成率が向上している。また、新製品売上高は約 4 倍に向上している。さらに、社員満足度も向上し、離職率が大幅に減っている。

## PT Komatsu Indonesia (インドネシア)

株式会社コマツインドネシア

代表者名：プラトジョジョ デウオ 氏 (プレジデント ディレクター)

Mr. Pratjojo Dewo (President Director)

所在地：J1. Raya Cakung - Cilincing Km.4, 14140, Jakarta,  
INDONESIA

T E L : +62-21-440-0611

事業内容：建設・鉱山機械、鋳造品等の開発、生産

売上高：4 億 7,200 万 U S D (約 530 億円)

従業員数：1,811 名

### [受賞理由]

同社は、1982 年に設立された、(株)小松製作所のインドネシアにおける子会社である。3 つの工場を持ち、売上高は 4 億 7,200 万 U S D、従業員数は

1,811名である。ブルドーザーやダンプトラック、パワーショベル等を開発・生産している。2011年に鉱山市場における需要の激減を経験、市場環境の変化に柔軟に適合する経営の重要性を痛感して、TQMを導入した。

同社は、国内顧客の要求変化に対応した新製品を開発・生産するとともに、取付け部品や再生部品のアフターマーケット事業を拡大している。また、柔軟な生産システムに向けた業務革新を行い、在庫増大を招かずに需要変化に対応する体制づくりを行っている。さらに、従業員一人ひとりが持つべき能力を経営目標・戦略の達成の視点から明らかにし、その育成に長期的な視点で取り組んでいる。

結果として、目標シェアの達成、在庫の低減、クレーム発生率の半減、従業員の能力向上を達成して、顧客ニーズの把握力、変化への対応力などの組織能力を獲得している。

## **JSW Steel Limited, Vijayanagar Works (インド)**

J S Wスチール株式会社ヴィジャヤナガル製鉄所

代表者名：ラジャシェカール パタナセティ 氏 (プレジデント)

Mr. Rajashekha Pattanasetty (President)

所在地：P. O Vidyanagar, District: Ballari, 583 275, Karnataka,  
INDIA

T E L : +91-83-9524-3500

事業内容：製鉄

売上高：3,840億インドルピー(約6,140億円)

従業員数：13,671名

### [受賞理由]

同組織は、1994年インド カルナータカ州ヴィジャヤナガルに建設されたインド JSW Steel 社の一体型製鉄工場で、同社の生産量の67%を生産している。従業員数は13,671名、売上高は3,840億インドルピー(約6,140億円)である。

2011年に、鉄鉱石のそれまでの主要な調達先での採掘が禁止され、原材料費、鉄鋼への加工コストの急騰という危機に直面した。この危機を乗り越え、2012年度～2016年度の中期計画を達成するために、これまでの仕組みをよりシステムとプロセスを重視したアプローチに変革していく必要性を認識し、TQMを導入している。その後、同組織が独自に開発したTQMフレームワークに基づいてTQMを推進し、積極的な新製品・新技術開発、独自の人材開発プログラムによる人材育成、地域を対象にした多様な社会的責任への取り組みを展開してきた。

その結果、この5年間で総売上高は24%、金利・税金・償却前利益(E B I T D A)は28%増加するとともに、顧客クレームの減少、新製品数の増加など、大きな改善効果を上げている。特に、自動車分野と高付加価値の冷間圧延鋼では、シェアを大きく伸ばしている。

## Sundram Fasteners Limited (インド)

スンドラムファスナーズ株式会社

代表者名：アラチ クリシュナ 氏 (マネージング ディレクター)  
Ms. Arathi Krishna (Managing Director)  
所在地：98-A, 7th floor, Dr. Radhakrishnan Salai, Mylapore,  
Chennai, 600-004, Tamil Nadu, INDIA  
T E L：+91-44-2847-8500  
事業内容：自動車用ファスナー、ギア、ポンプの製造  
売上高：330 億インドルピー(528 億円)  
従業員数：6,759 名

### [受賞理由]

同社は、インドの大規模製造業である TV Sundram Iyengar グループに属し、1966 年にチェンナイで創業した。ファスナー、ギア、ポンプなどの自動車関連部品を設計・製造している。従業員数は 6,759 人、売上高は約 330 億インドルピー(528 億円)である。

同社は、品質 No.1 サプライヤーを目的として、トップの強いリーダーシップのもと 2012 年に T Q M を導入した。市場と製品による 4 つの象限で戦略を策定し、市場開発、新製品・新プロセス開発を行っている。また、新製品開発ではプロセス構造に基づく標準化により目標品質の造りこみを行っている。さらに、Q C サークル、品質改善チーム、部門横断チームなどの積極的な活動により問題解決能力を向上させている。

その結果として、新製品・新技術の開発に成功し、売上高に占める新製品の割合が着実に向上している。そして、売上高拡大、新規顧客獲得、競争力強化により、2012 年導入時に比べて 2017 年度では、売上高が約 1.6 倍程度増加し、税引き前利益率が約 2.3 倍程度増加している。

## トヨタホーム株式会社

代表者名：山科 忠 氏 (取締役社長)  
所在地：〒461-0001 愛知県名古屋市東区泉 1-23-22  
T E L：052-952-4236  
事業内容：住宅の技術開発、生産、販売、建設、アフターサービス  
売上高：1,645 億円(連結)  
従業員数：3,282 名(連結)

### [受賞理由]

同社は、1975 年にトヨタ自動車(株)の住宅事業部として発足し、2003 年に住宅販売会社として設立後、2010 年に完全分社化された。戸建事業が主要事業であるが、多角化も推進している。連結従業員数は 3,282 名、連結売上高は 1,645 億円である。

同社は、顧客に最高の満足を生涯にわたって提供し続けることを目標に事業を推進している。しかし、住宅市場は段階的に縮小し、競合条件は益々厳

しくなるという見通しの中で、生き残りと持続的成長を目指して 2014 年度より T Q M 推進を強化してきた。この間、顧客指向の経営改革、営業力強化のための販売プロセスの管理と改善、階層別の人材育成体系に基づく個人と組織の能力育成などの特徴ある活動を展開している。

その結果、主要な経営目標として掲げた C S No.1 の実現について、顧客満足度が向上し、業界 No.1 レベルとして設定した目標を達成している。また、戸建て事業の確実な伸張、および事業多角化の着実な進展などの経営目標を達成している。

## **Rane NSK Steering Systems Private Limited (インド)**

ラネ・NSK ステアリングシステムズ株式会社

代表者名：L. ガネシュ 氏 (チェアマン)

Mr. L. Ganesh (Chairman)

所在地：14, Rajagopalan Salai, Vallancherry, Guduvancherry  
- 603 202, INDIA

T E L : +91-44-4740-6037

事業内容：自動車用部品、ステアリング、サスペンション等

売上高：約 149 億インドルピー(約 238 億円)

従業員数：927 名

### [受賞理由]

同社はインドの Rane グループと日本精工(株)(NSK)とのジョイントベンチャーとして 1997 年に設立された自動車部品メーカーである。主力製品は Manual Steering Columns(M S C)と Electric Power Steering Columns(E P S)である。従業員数は 927 名、売上高は約 149 億 インドルピー(約 238 億円)である。

同社は広い範囲の顧客に対して製品・技術を提供するために戦略を立案し、これを体系的に実施するため 2012 年に T Q M を導入した。

同社は、革新的なビジネスを実施するため戦略的方針管理を推進し、顧客、供給者、研究組織と協働した技術開発を展開している。また、重点問題解決活動を通じた従業員の能力開発を計画的に実践している。

その結果、M S C と E P S の両方でインド No.1 のシェアを達成し、工程内不良・顧客での不良を激減させるなど、品質に関わる多くの指標で成果を得ている。

※ 2018 年度はデミング賞普及・推進功労賞(海外)は、なし。

**2018年度（平成30年度）  
日経品質管理文献賞 受賞者**

デミング賞委員会は、本年10月2日開催のデミング賞委員会において2018年度日経品質管理文献賞の受賞者を下記のとおり決定いたしました。

授賞式は、11月14日（水）17時15分から東京・大手町の経団連会館においてデミング賞授賞式とあわせて行われます。

**受賞文献 4件**（受賞文献名五十音順）

**「構造的因果モデルの基礎」**

くろき まなぶ  
黒木 学 著

2017年：共立出版株式会社

**「こんなにやさしい未然防止型QCストーリー」**

なかじょう たけし  
中條 武志 著

2018年：株式会社日科技連出版社

**「スタンダード品質管理」**

にしな けん かわむら ひろのぶ いしい なる  
仁科 健、川村 大伸、石井 成 共著

2018年：株式会社培風館

**「J S Q C 選書 28**

**品質機能展開(QFD)の基礎と活用** — 製品開発情報の連鎖とその見える化 —

一般社団法人日本品質管理学会監修

ながい かずし  
永井 一志 著

2017年：一般財団法人日本規格協会

## デミング賞・日経品質管理文献賞の説明資料

### I. デミング賞とは

1. 「デミング賞」は、統計的品質管理の工業への応用において終戦後、たびたび指導のため来日された米国人故 W.E.デミング博士（1900～1993）の友情と業績を記念し、わが国の品質管理の一層の発展を図るため、日本科学技術連盟によって1951年（昭和26年）に設けられたものであり、今年で創設68年を迎えました。

また、「デミング賞大賞」は、日本科学技術連盟が、1969年（昭和44年）10月東京で開催した世界初の品質管理国際会議を記念し、その意義を永く将来にわたって維持高揚するとともに品質管理の一層の発展をはかるために創設されたものです。

企業・組織を対象とする「デミング賞」「デミング賞大賞」は、応募した組織について審査が行われ、授賞を決定いたします。

デミング賞委員会の経費は、一般財団法人日本科学技術連盟によって負担されています。

### 2. デミング賞の種類

「デミング賞本賞」、「デミング賞普及・推進功労賞(海外)」、「デミング賞」、「デミング賞大賞」の4つがあります。

### 3. 授賞の対象

賞の種類	賞の概要	対象
(1) デミング賞本賞	1) 総合的品質管理(Total Quality Management, 以下TQMという)の研究に関し優れた業績のあった者. 2) TQMの普及に関し優れた業績のあった者.	個人
(2) デミング賞 普及・推進功労賞 (海外)	TQMの普及・推進に関し、優れた業績のあった者。 ただし、候補者は、主たる活動が海外に限定される者に限られる。(原則として3～5年ごとに選考が行われる)	個人 (海外)
(3) デミング賞	経営理念、業種、業態、規模、経営環境にふさわしいTQMが効果的に実施されている応募組織に授与。(年度賞)	企業・組織
(4) デミング賞大賞	デミング賞を受賞した組織のうち、受賞後3年以上を経過しており、受賞後もTQMにおいて優れた成果をあげた応募組織に授与。(年度賞)	企業・組織

## II. 日経品質管理文献賞とは

日経品質管理文献賞は、「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献（数値表やソフトウェアをとまなう文献を含む）で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められる優秀なものを表彰するため、日本経済新聞社により、1954年に創設されました。この賞の審査はデミング賞委員会において行われ、デミング賞行事の一環として毎年賞の授与が行われています。

### 推薦または応募の資格

日経品質管理文献賞は、日本語で書かれた文献、または、日本を主たる活動の場としている著者の文献で、次に掲げる文献の作成者に授与されます。

- a) 「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献（数値表やソフトウェアをとまなう文献を含む）で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められるものを対象とします。
- b) 対象文献は、原則として、前年の7月1日から当年の6月30日までに公表されたものです。

## デミング賞／デミング賞大賞の累積受賞者（組織）数

### 1. デミング賞本賞

[1951年（昭和26年）以降2018年（平成30年）までの受賞者数] 81名

### 2. デミング賞普及・推進功労賞(海外)

[2009年（平成21年）以降2018年（平成30年）までの受賞者数] 3名

### 3. デミング賞

[1951年（昭和26年）以降2018年（平成30年）までの受賞組織数] 延252組織

(a) デミング賞 29組織（うち海外17組織）  
※2012年度の賞の名称変更以降の数

(b) デミング賞実施賞中小企業賞（1994年まで）38組織

(c) デミング賞実施賞事業部賞（1994年まで）5社5事業部

※1995年からデミング賞実施賞中小企業賞およびデミング賞実施賞事業部賞という名称は廃止され、デミング賞実施賞に一本化されました。

(d) デミング賞事業所表彰（2009年まで）16社20事業所（うち海外3社3事業所）

※2010年からデミング賞事業所表彰はデミング賞実施賞に一本化されました。

(e) デミング賞実施賞（2011年まで）延160組織（うち海外35組織）

※2012年から「デミング賞実施賞」を「デミング賞」に名称変更しました。

### 4. デミング賞大賞

[1970年（昭和45年）以降2018年（平成30年）までの受賞組織数] 延30組織  
（再度の受賞組織2組織，海外11組織を含む）

※2012年から「日本品質管理賞」を「デミング賞大賞」に名称変更しました。

### 5. 日経品質管理文献賞

[1954年（昭和29年）以降2018年（平成30年）までの受賞件数] 243文献